

Release Bulletin for PowerBuilder 2019 R3 (Japanese)

PowerBuilder® 2019 R3 (Japanese)

FOR WINDOWS

DOCUMENT ID: ADC20231-01-2019-03

LAST REVISED: June 21, 2021

Copyright © by Appeon Limited. All rights reserved.

This publication pertains to Appeon software and to any subsequent release until otherwise indicated in new editions or technical notes. Information in this document is subject to change without notice. The software described herein is furnished under a license agreement, and it may be used or copied only in accordance with the terms of that agreement.

No part of this publication may be reproduced, transmitted, or translated in any form or by any means, electronic, mechanical, manual, optical, or otherwise, without the prior written permission of Appeon Limited.

Appeon and other Appeon products and services mentioned herein as well as their respective logos are trademarks or registered trademarks of Appeon Limited.

SAP and other SAP products and services mentioned herein as well as their respective logos are trademarks or registered trademarks of SAP and SAP affiliate company.

Java and all Java-based marks are trademarks or registered trademarks of Oracle and/or its affiliates in the U.S. and other countries.

Unicode and the Unicode Logo are registered trademarks of Unicode, Inc.

All other company and product names used herein may be trademarks or registered trademarks of their respective companies.

Use, duplication, or disclosure by the government is subject to the restrictions set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of DFARS 52.227-7013 for the DOD and as set forth in FAR 52.227-19(a)-(d) for civilian agencies.

Appeon Limited, 1/F, Shell Industrial Building, 12 Lee Chung Street, Chai Wan District, Hong Kong.

目次

1	Build 2722 (GA).....	5
1.1	システム要件	5
1.1.1	PowerBuilder	5
1.1.2	SnapDevelop	6
1.2	既知の問題点	8
1.2.1	PowerBuilder	8
1.2.2	SnapDevelop	11
1.3	Bug Fixes	12
1.3.1	PowerBuilder	12
1.4	アップグレードノート.....	16
1.4.1	ランタイムファイル名と場所の変更	16
1.4.2	ソースコードへのフル構築の実行	17

1 Build 2722 (GA)

1.1 システム要件

1.1.1 PowerBuilder

PowerBuilder 2019 R3 をインストールする前に、システムがすべての要件を満たしていることを確認してください (日本語版)。

注意

PowerBuilder インストーラー (オンラインインストールプログラム) から PowerBuilder をインストールする場合は、PowerBuilder インストーラーを実行する前に、Universal C Runtime (CRT) と Microsoft .NET Framework 4.6.1 SDK 以降がインストールされていることを確認してください。

表 1.1 : PowerBuilder のシステム要件

製品	コンピューター	最小メモリ	ハードディスク 容量	オペレーティングシステム
この表は、PowerBuilder のシステム要件を示しています。ディスク容量の要件は概算です。各製品に必要な実際のディスク容量は、ハードディスクのサイズ、パーティション、およびインストールする機能によって異なる場合があります。インストールファイルを解凍するために、インストール中にハードディスクに追加する一時スペースが必要です。				

PowerBuilder	Intel Core i3 以上	4 GB	すべてのコンポー ネントで 4 GB	PowerBuilder IDE と ランタイムのサポート : Windows 8.1 32-bit / 64- bit Windows 10 32-bit / 64-bit (Windows IoT およ び Windows Embedded Compact を除く) PowerBuilder ランタイ ムのみサポート : Windows Server 2019 Windows Server 2016 Windows Server 2012 R2
--------------	---------------------	------	-----------------------	--

1.1.2 SnapDevelop

SnapDevelop 2019 R3 をインストールする前に、システムがすべての要件を満たしていることを確認してください。

- Windows 10 バージョン 1607 (OS Build 14393.3930) 以降または Windows 8.1 Windows 10 バージョン 1607 より前のバージョンは、Microsoft .NET Framework 4.8 SDK と互換性がないことに**注意**してください。

現在のマシンが Windows 8.1 で実行されている場合は、KB2919355 がすでにインストールされていることを確認してください。現在のマシンが Windows 10 で実行されている場合は、Windows 10 バージョン 1607 (OS Build 14393.3930) 以降がインストールされていることを確認してください。

- Universal C Runtime

セットアッププログラムは、Universal C Runtime がインストールされているかどうかを確認します。インストールされていない場合は、セットアッププログラムがパッケージリストを提供するため、パッケージを手動でダウンロードしてインストールする必要があります。または、

[SnapDevelop インストールガイド](#)の手順に従うこともできます。

- Microsoft .NET Framework 4.8 SDK、Microsoft .NET Core SDK 2.1.500 および 3.1.302、および TypeScript SDK 3.1

これらの前提条件は、インストーラーが現在のマシンにインストールされていないことを検出すると、自動的にインストールされます。

SnapDevelop のインストール中に Microsoft .NET Framework 4.8 SDK のインストールに失敗した場合は、他のプログラムをインストールしてコンピューターを再起動した後で、再度インストールを試みることができます。

データベースサーバーの要件

SnapDevelop IDE、.NET DataStore、および SnapObjects は、以下のデータベース種類とバージョンをサポートしています。

表 1.2 :

DB 種類	DB バージョン
MySQL	5.6、5.7、または 8.0
Amazon RDS for MySQL	8.0.20
Amazon Aurora for MySQL	5.6.10a
Azure Database for MySQL	5.6
PostgreSQL	9.6、10.1、11.3、または 12
Amazon RDS for PostgreSQL	12.3-R
Amazon Aurora for PostgreSQL	11.6
Azure Database for PostgreSQL	11
Oracle	12c、18c、または 19c
Amazon RDS for Oracle	12.1.0.1
SQL Server	2016, 2017、または 2019
Amazon RDS for SQL Server	2017 14.00.3281.6.v1
Azure SQL Database	最新の SQLServer エンジン (2020 年 9 月現在)
SQLite	3

Adaptive Server Enterprise (ODBC)	15.0、15.7、または 16.0
SQL Anywhere (ODBC)	16 (16.0.0.2043 以降) または 17
HANA (ODBC)	2.0

SQL Anywhere、Adaptive Server Enterprise、および HANA は ODBC を介して接続できます。

1.2 既知の問題点

1.2.1 PowerBuilder

PowerClient のデプロイには以下の既知の問題があります。

- Avira、McAfee WebAdvisor、BullGuard などのウイルス検出ソフトウェアは、プログラムのインストールプロセス中に PowerBuilderRuntime.exe ファイルまたは CloudAppLauncher.exe をブロックする場合があります。
 - Avira : 署名されていないクラウドアプリはブロックされます。例外リストに追加し、マシンを再起動して正常に実行できます。今後の誤検知ファイルの検疫を防ぐために、最初にクラウドアプリに署名することをお勧めします。
 - 他のウイルス検出ソフトウェアでの解決策については、[この記事](#)を参照してください。
- PowerBuilder は大文字と小文字を区別しないように設計されているため、Linux などの大文字と小文字を区別するシステムにアプリファイルをデプロイすると、アプリケーション実行時に一部のアプリファイル (画像など) が見つからないか、読み込まれない場合があります。ファイル名の大文字と小文字による問題を回避するには、大文字と小文字を区別しないように Linux サーバーを構成してください。

WebBrowser には以下の既知の問題があります。

- WebBrowser コントロールを含む MDI child ウィンドウを開いた後、非アクティブ化およびアクティブ化すると、WebBrowser コントロールが空白で表示される場合があります。

- WebBrowser コントロールが、OpenUserObject を介してウィンドウ内のビジュアルユーザーオブジェクトのインスタンスとして開かれ、次に CloseUserObject を介して閉じる手順を数回繰り返すと、PowerBuilder がクラッシュする場合があります。

ExtractorObject には以下の既知の問題があります。

- 暗号化されたファイルを抽出し誤ったパスワードを指定した場合、エラーコードは -7 ではなく -10 になります。
- Start イベントの TotalSize は、SizeCompleted イベントの CompletedSize と等しくない場合があります。

UI テーマには以下の既知の問題があります。

- ApplyTheme 関数を使用してテーマをアプリケーションに適用した状態で、アプリケーション構築時に「Windows クラシックスタイル」オプションを選択した場合、アプリケーション UI は、適用されたテーマと Windows クラシックスタイルの混合でレンダリングされます（予期される動作と異なります）。[テーマ] タブを使用してアプリケーションにテーマを適用し、アプリケーション構築時に「Windows クラシックスタイル」オプションを選択した場合、アプリケーション UI は Windows クラシックスタイルでレンダリングされます（これは想定されています）。
- 「右から左」プロパティと「テキストを左に表示」プロパティは、ラジオボタンとチェックボックスには有効ではありません。
- ドロップダウン ピクチャリストボックスから項目を選択すると、表示されていた画像が消えます。

2019 R3 で新しく追加された RichTextEdit オプション「組み込み TX Text Control」は、TX Text Control ActiveX X15 の特別な OEM バージョンです。「組み込みリッチテキストコントロール」オプションに影響を与える以下の既知の問題と、RichTextEdit コントロールでサポートされていない機能は、新しく追加された「組み込み TX Text Control」オプションを選択することで回避できます。

- (バグ ID : 246) RichTextEdit は、プログラムでフォントを変更することはできません。
- (バグ ID : 288) データウィンドウリッチテキストコントロールが正しくスケーリングされません。

- (バグ ID : 451) 2 つの RichTextEdit コントロールのデータを 3 番目のコントロールにマージしても正しく機能しません。
- (バグ ID : 346、392、451、493、589、637、655、672、656、675、747、925、932、918、923、989、894、1024、1117、1146、1142、1334、1363、1386、1421、1510、1495、1496、1529、1548、1624、1636、1693、1687、1711、1827、1836、1894、1876) 懸念される問題については、サポートチームに確認してください。

その他の既知の問題 :

- Appeon インストーラーの要件によって、Windows 7 または Windows Server 2018 R2 に [KB2533623](#) をインストールできない場合があります。エラーメッセージは、「アップデイトは適用されません」または「ライブラリ hostfxr.dll が見つかりませんでした…」のいずれかです。これは一般的な Windows Update の問題です。使用している環境と実際のエラーメッセージに応じて、Microsoft Web サイトで解決策を見つけることをお勧めします。
- 2019 R3 を新しい build に更新した後も、前の build で作成されたアプリケーションプロジェクトには、前の build を指すアプリケーション XML のランタイムパスがあります。アプリケーションプロジェクトの設定を開き、[実行] タブの [アプリケーション XML のランタイムパス] 設定を更新してください。
- 2019 R3 で Web サービスを正常に実行するには、PowerBuilder IDE と PowerBuilder ランタイムのパスをシステム環境変数 PATH に追加して、依存する DLL ファイルを見つける必要があります。
- SQL Anywhere ストアドプロシージャを使用する場合は、SQL Anywhere 17.0.2053 (このドキュメントの執筆時点で SAP Web サイトから無料試用版として入手可能) を使用しないでください。このバージョンでは、「[Anywhere] syntax near 'procedure ?'line 1」などのエラーが発生する可能性があります。SQL Anywhere ストアドプロシージャを使用する場合は、別のビルド (17.0.4.2000 以前または 17.0.4.2088 以降など) を使用してください。
- regasm.exe (Microsoft が提供するアセンブリ登録ツール) を使用して DLL ファイルを登録する場合、登録に失敗してもその旨のメッセージは表示されません。

- TX Text Control テキストコントロールを使用したリッチテキストデータウィンドウは、Ghostscript distiller (Distill! メソッド) を使用してデータを PDF ファイルに保存することはサポートされていますが、PDFLib ジェネレーター (NativePDF! メソッド) の使用はサポートされていません。
- コンピューターがユーザー認証を必要とするプロキシサーバーを介してインターネットに接続している場合、次の機能は機能しません。1) PowerBuilder オンラインライセンス、2) PowerBuilder インストーラー (オンラインインストールプログラム)、3) PowerServer モバイルテンプレートマネージャー。
- PowerBuilder を (管理者ではなく) ゲストとして実行すると、次のライセンスの問題が発生する可能性があります。「ライセンスログイン画面に設定状況が正しく表示されない場合があります」この場合にアップグレード後、ライセンスファイルにアクセスできない場合があります。または、新しいログイン資格情報が正しく保存されていない可能性があります。
- メニューから [ヘルプ] > [PowerBuilder デモアプリ] で選択したページについては、英語表記の <https://demo.appeon.com> ウェブページが開きます
- SalesDemo アプリケーションの readme ファイルは英語となります。
- Git サーバーによって出力される Git の詳細エラーメッセージは英語となります。
- PB Examples デモアプリについて、アプリケーションオブジェクトには RichTextEdit コントロールとして “組み込み TX Text Control ActiveX 15.0” が選択されていますが、組み込みの PowerClient アプリケーションでは “組み込み TX Text Control ActiveX 28.0” が選択されているため RichTextEdit 機能が正しく機能しません。

1.2.2 SnapDevelop

SnapDevelop には以下の既知の問題があります。

- IDE の次の部分は、完全に日本語ローカライズされていません。1) 構文サービス機能、2) 出力ウィンドウ、3) デバッグウィンドウ (ウォッチ、ローカルなどを含む)、4) Git および SVN のウィンドウとメニュー、5) 一部ウィンドウの Close ボタンとツールチップ。
- Microsoft .NET Framework 4.8 は Windows 10 バージョン 1607 以降をサポートしているため、オフラインインストーラーを使用して SnapDevelop とそのコンポーネント (.NET DataStore および PowerScript Migrator) をインストールするには、Windows 10 バージョン 1607 以降が必要です。

- PowerBuilder IDE から SnapDevelop を起動して C# アセンブリをデバッグすると、SnapDevelop が応答を停止したり、デバッガが動作を停止したりする場合があります。
- その他の既知の問題については、[ここを参照](#)してください。

1.3 Bug Fixes

1.3.1 PowerBuilder

以下の修正されたバグは、PowerBuilder 2019 R3 (日本語) GA 2722 で**ロールバック**されます。

- (バグ ID : 2278) (2017 R3 JP [1917](#) で修正されたと発表) 集計関数はすべての行が NULL である日付カラムで不正な結果を返します。

以下のバグは、PowerBuilder 2019 R3 (日本語) GA 2722 (2017 R3 JP MR [1935](#) と比較して) で修正されています。

- (バグ ID : 2885) 1) ランタイムパッケージは、64-bit コンポーネントを "Program Files" フォルダーではなく "ProgramFiles(x86)" フォルダーにインストールします。2) PowerBuilder ランタイムパッケージのスタートメニューのショートカットにバージョン番号が追加され、同じマシンにインストールされている複数のバージョンと区別できるようになっています。
- (バグ ID : 5553) プリンターがインストールされていない場合、PrintGetPrinter がクラッシュします。
- (バグ ID : 5501) カラムを破棄後、ExportJSON がクラッシュします。
- (バグ ID : 5587) 実行時に PNG 形式のメニューアイコンとツールバーアイコンを切り替えることができません。
- (バグ ID : 5528) PB IDE で ASE に接続すると、IDE がクラッシュします。
- (バグ ID : 5520) MSOLEDBSQL SQL Server で StaticBind=1 を使用すると、PB アプリケーションがクラッシュします。

- (バグ ID : 4884) NativePDF を使用して画像をエクスポートすると、PDF ファイル内で画像が重複します。
- (バグ ID : 1952) NativePDF を使用してラジオボタンをエクスポートすると、PDF ファイルではラジオボタンの外観が異なります。
- (バグ ID : 4484) NativePDF を使用してバーコードをエクスポートすると、PDF ファイル内のバーコードの見た目が異なり、PDF ファイル内のバーコードをスキャンできません。
- (バグ ID : 3611) NativePDF で仮想プリンターと物理プリンターで生成された PDF ファイルでは、ページ余白の見え方が異なります。
- (バグ ID : 4856) OneNote などデフォルトの Office プリンターで NativePDF を使用して PDF ファイルを生成する場合、ページマージン設定は効果がありません。
- (バグ ID : 3441) NativePDF で印刷プレビューと物理プリンターで生成された PDF ファイルでは、ページ数が異なります。
- (バグ ID : 2447) NativePDF として保存した後、RichEdit カラムの左側または上部に余分なスペースが追加されます。
- (バグ ID : N/A) NativePDF で生成された PDF ファイルには、デフォルトタイトルとして「datawindow」が表示されますが、これは正しくありません。
- (バグ ID : 4901) NativePDF を使用してエクスポートすると、PDF ファイル内の特殊文字が正しく置き換えられません。
- (バグ ID : 5354) NativePDF を使用してエクスポートされた同じデータウィンドウの PDF ファイルのページ数は増え続けています。
- (バグ ID : 5093) 区域の下部に配置したデータウィンドウには表示されないオブジェクトが PDF に表示されます。
- (バグ ID : 5419) さまざまなデータウィンドウの行をすばやくクリックすると、アプリケーションがクラッシュします。

- (バグ ID : 1913) 「Git リバート」を実行すると、コマンド「git update-index --skip-worktree」でマークされたファイルがリセットされます。
- (バグ ID : 5162) SyntaxFromSQL 関数を実行 (失敗) した後、ローカル一時テーブルは表示されなくなります。
- (バグ ID : N/A) PBC は、PBL を直接コンパイルするのではなく、ws_objects フォルダ内のソースファイルを PBL にインポートします。
- (バグ ID : 4928) オブジェクトが SVN の needs-lock プロパティで設定されている場合、Deploy Project はエラーメッセージを受け取ります。
- (バグ ID : 3736) 64-bit のランタイム DLL が Get / SetWindowLongPtr の代わりに Get / SetWindowLong を呼び出すため、アドレスが切り捨てられてクラッシュします。
- (バグ ID : 6277) 256 を超える PBL があるアプリの場合、PBC はエラーを報告しました。
- (バグ ID : 6100) Target が異なるフォルダにある場合、Workspace 内のすべての Target を構築しようとするとエラーが発生しました。
- (バグ ID : 5959) (SVN/Git) オブジェクトのコメントまたはプロパティが変更された場合、更新またはコミットは実行されません。
- (バグ ID : 5985) HTTPClient.sendrequest は 3 を返し、機能しません。
- (バグ ID : 3612) RowCount が 0 の場合、データウィンドウオブジェクトのイベントをトリガーできませんでした。
- (バグ ID : 1692) SyntaxFromSql が原因でメモリリークが発生したため、動的に生成されたデータストアで SetTransObject() が失敗します。
- (バグ ID : 3513) レポート実行中にアプリケーションがランダムにクラッシュします。
- (バグ ID : 3949、4132) window.print() 関数が動作しません。
- (バグ ID : 3846) SaveAs メソッドを使用して XLSX ファイルを出力した場合、出力ファイルの Null または空の列に改行とスペースが設定されます。

- (バグ ID : 4386) ORCA を使用してデータウィンドウを再生成すると、次のエラーが発生します : 「xxxx.exe の 0x77C335B9 (ntdll.dll) で例外がスローされました : 0xC0000138 : 序数が見つかりません。」
- (バグ ID : 4421) ドロップダウンリストボックスのソートプロパティが以前のように機能していません。
- (バグ ID : 4579) 有効なデータウィンドウで [塗りつぶし]、[保存]、[開く] の各ボタンをクリックすると、現在のデータウィンドウのカラムの値は常に「??」と表示されます。
- (バグ ID : 4583) (ウィンドウ) トライアル版のウィンドウタイトルを NULL 値に設定していると、アプリケーションがクラッシュします。
- (バグ ID : 4640) PDF ボタンをクリックして PDF としてエクスポートすると、生成された PDF ドキュメントの最初のページに不要な情報が表示されます。
- (バグ ID : 4864) Git リフレッシュがすべてのオブジェクトの更新に失敗した場合、[キャンセル] をクリックしてもオブジェクトは正しくロールバックされません。
- (バグ ID : 4868) SQL Server データベース 2016 以降でデータウィンドウの DateTime フィールドの更新に失敗しました。
- (BugZilla ID : 900) Git/SVN 認証情報はレジストリに保存されるときに暗号化されますが、暗号化アルゴリズムは十分に強力ではありません。
- (BugZilla ID : 1825) 64-bit の Microsoft SQL Server ODBC を使用するとき ReselectRow を実行すると、「10 進変換エラー」が発生します。
- (BugZilla ID : 199) ソートで計算フィールドが使用されている場合、Modify 関数によってソートカラムが正しくなくなります。
- (BugZilla ID : 1681) bg パラメーターが n に設定されている場合、PowerBuilder IDE によって自動的に生成される PBC ランタイムパラメーターを実行できませんでした。
- (BugZilla ID : 1836) データウィンドウのリッチテキスト編集スタイルのカラムを印刷または保存すると、アスペクトが変更されます。

- (BugZilla ID : 1064、1021) 共有リダイレクトされたローカルプリンターが Windows Server 2016 でデフォルトとして選択されている場合、PrintSetup 関数と PrintGetPrinter 関数はそれをデフォルトプリンターとして返すことができませんでした。
- (BugZilla ID : 386) ドロップダウンデータウィンドウカラムのプロパティ [編集] のリストにすべての項目を表示できませんでした。
- (BugZilla ID : 1744、2003) ヘルプファイルのクロスドキュメントリンクが機能しませんでした。
- (BugZilla ID : 1903) NativePDF! オプションで [PDF として保存] メソッドを使用すると、リッチテキスト列が 2 回表示されます。
- (BugZilla ID : N/A) TE の RichTextEdit スタイルのデータウィンドウを PDF に保存すると、データが乱雑になります。

1.4 アップグレードノート

1.4.1 ランタイムファイル名と場所の変更

PowerBuilder ランタイムを PowerBuilder IDE (バージョン 2019 R3) から分離することで、以下の大きな変更が発生し、アプリケーションのソースコードが破損する可能性があります。

- .dll、.ini、.pbx、.pbd など含む**すべての**ランタイムファイル名が変更され、ファイル名に付加されていたバージョン番号インジケータ ("170"、"190" など) が削除されます。たとえば、pbvm190.dll は pbvm.dll に変更され、pbodb190.ini は pbodb.ini に、pbwsclient190.pbd は pbwsclient.pbd に、pborc190.dll は pborc.dll に変更されます。

アプリケーションのソースコードをよく確認し、必要に応じてファイル名とパスを更新してください。特に

- アプリケーションが pbwsclient.pbd、pbdom.pbd、pbsoapclient.pbd、pbejbclient.pbd を使用している場合
- アプリケーションが pborc.dll を使用して PBL からソースをインポート / エクスポートする場合

- アプリケーションが pbvm.dll を呼び出す場合
- 以前は "Shared" フォルダーにインストールされていた**すべての**ランタイムファイルが、
"Runtime [バージョン]" フォルダーと "IDE" フォルダーに別々にインストールされるようになりました。

ランタイムファイルの場所は、システム環境 PATH に記録されなくなりました。代わりにシステムレジストリに記録されます。

アプリケーションがランタイムファイルを呼び出した場合は、それに応じてコードを変更して、更新されたファイル名を新しい場所に配置する必要があります。コード例については、[ここ](#)をご覧ください。

1.4.2 ソースコードへのフル構築の実行

新しい 2019 R3 IDE でワークスペースを開くときは、IDE からマイグレーションおよびフル構築のプロンプトが表示されない場合でも、ソースコードのマイグレーションとフル構築を手動で実行してください。